

令和5年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 128
 学校名 愛知県立知立高等学校
 校長氏名 森藤 真言

研究責任者職・氏名	教諭・菊地 純弥	
研究テーマ	もっと学びたくなる授業を創ろう	
本年度の研究目標	(1) 総合学科の多様な学習の中で「主体的・対話的で深い学び」を推進し、さらに興味・関心を高める授業への改善を図る。 (2) 総合学科の多様な学習において、探究的な学習を推進する。 (3) (1)(2)のために、ICT機器を積極的に活用する。 (4) 評価の在り方を工夫する。	
研究の実施内容		
実施月日	内容	備考 (対象生徒等)
令和5年 3月30日	(1) 第0回職員会議「令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書」を全職員へ配付	全職員
5月下旬	(2) 前期研究授業の準備(指導案作成、教科での検討)	全教科
5月29日～6月9日	(3) 前期授業研究週間(研究授業の実施、参観、研究協議)	授業担当者
6月20日	(4) 第1回研究協議会(総合学科系列会)	系列会担当者
6月27日	(5) 第1回連絡協議会, 主管校視察(知立東高校)	教頭
10月下旬	(6) 後期研究授業の準備(指導案作成、教科での検討)	全教科
11月6日～11月17日	(7) 後期授業研究週間(研究授業の実施、参観、研究協議)	授業担当者
11月17日	(8) 第2回研究協議会(総合学科系列会)	系列会担当者
令和6年 1月12日	(9) 授業実践報告書の提出(校内締切)	全教科
1月24日	(10) 第2回連絡協議会(知立東高校)	教務主任
3月14日	(11) 現職研修会(研究成果の振り返り)、研究報告書提出	全職員

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績
<p>1 国語科の研究 ～自ら思考し自ら他者に伝える授業を目指して～</p> <p>(1) 令和5年度の研究授業</p> <p>ア 授業内容の要旨(詳細は指導案を参照)</p> <p>文章の読み取りを中心とした旧来の授業展開を改善するため、文章に提示された内容を実生活に当てはめて考えさせることで、生徒自身の思考・表現を促す授業を実施した。</p> <p>イ 工夫した点</p> <p>(ア) ICTの活用</p> <p>PowerPointを使用させ、ペアの生徒の「ノブレス・オブリージュ」(各人固有の能力と、それを使った他者への貢献)について発表させた。</p> <p>(イ) 主体的で・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>① まず、ペアの生徒と互いの長所をあげるところから始めさせ、相手の表面的な印象にと</p>

らわれない思考ができるようにした。

② 評価シートを用意し、発表を聞く生徒からのフィードバックを行えるようにした。

ウ 評価の方法

発表の内容、評価シートの内容を総合的に判断して評価した。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

タブレットの充電が切れた、またはフリーズ等の不具合を起こした場合のリスクマネジメントをしっかりとしておくことである。また、今回は人数と時間の兼ね合いから5段階評価の評価シートしか活用できなかったため、生徒が具体的なコメントやアドバイスを行えるような工夫、また発表の内容を細かく評価できるような評価方法の改善が今後の課題である。

(2) 令和5年度の国語科の取組

ICTの積極的な導入を図っている。教科内では現在、Teamsを用いて連絡を行っている。授業では、若手教員を中心にロイロノートで課題提出や問題演習のために使用する取り組みを行っている。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」の創出へ向けて

旧来のような読み取り中心の授業から脱却し、筆者の主張や文章の中心的話題に関わる問題が、日常生活や社会の中でどのように扱われているか、またそれについて生徒自身はどのように考えるのかなど、実践的かつ発展的な学習を増やしていきたい。

イ 「深い学び」の充実に向けて

単元によって、生徒が十分に思考し表現をする時間、生徒自身に活動をさせる場を増やすために、指導方法等を工夫していきたい。

ウ 観点別評価の充実に向けて

旧来の評価方法では、提出物と考査の点数が評価の大半を占めてきた。しかし、確認テストやワークシート、振り返りシートなどを評価に入れることで、考査のみではなく、日頃の授業における幅広い取り組みの状況から生徒を評価することができるようになった。このことが功を奏し、成績不振者指導を要する生徒が、旧学習指導要領運用時に比べ減少している。今後はさらに評価方法の幅を広げ、授業態度やグループワーク等の授業の様子についての評価についても明確にしていきたい。

2 地歴公民科の研究 ～市民性（シティズンシップ）を育む～

(1) 令和5年度の研究授業

ア 授業内容の要旨（詳細は指導案を参照）

地域社会の在り方について主体的に考え、持続可能な街づくりをテーマに私たちの生活する街の発展に寄与できるよう知立市議会で達成可能な目標を提案する。

イ 工夫した点

(ア) ICTの活用

離れた相手と充実した議論ができるように、市議会議員とZOOMを活用してオンラインによるタウンミーティングを実施する。

(イ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫

少人数によるグループ活動とし、全ての生徒に役割を付けることによって、主体的に取り組むことができる。

ウ 評価の方法

本時の知識・技能についての評価は作成したパワーポイント等の作成資料、思考・判断・表現についての評価はパワーポイント等の作成資料、主体的に取り組む態度についての評価は活動の観察で評価する。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

若者の住みよい街だけでなく、シニアタウン構想などの幅広い視野を育成していくために外部との連携を増やしていく。

(2) 令和5年度の地歴公民科の取組（教科としての目標や実践していること）

ICT活用率の向上を掲げ、授業内での生徒用タブレットの活用、プロジェクター等の機器の活用を積極的に行っている。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」(生徒の意欲・関心を高める授業)の創出に向けて

ICTの活用は生徒の意欲向上に繋がっている。生徒用タブレットは現状、調べ学習や資料作成のために活用されていることが多いが、生徒のICT活用の能力を最大限引き出すためには、制限を設けすぎずに活用させると教員を驚かせるような技能を発揮する生徒もいるため、使わせ方について考えていきたい。

イ 「深い学び」(探究的な学習)の充実に向けて

今回の授業では、市議会議員や市職員との連携があり、生徒の街づくりへの理解が深まったことを感じる。地歴公民科は、教科の特色を生かして外部の専門家と連携した授業を増やしていくことが生徒の深い学びに繋がると考えられる。

ウ 観点別評価の充実に向けて

グループでの資料作成や発表では、思考・判断・表現の評価のつけ方が難しい。そのため、自己評価を單元ごとに行わせることで、生徒個人がどの部分の発表に関与していたのかが明確になり、評価の充実につながると考えられる。

3 数学科の研究 ～身近な題材から数学の有用性を実感する～

(1) 令和5年度の研究授業

ア 授業内容の要旨(詳細は指導案を参照)

これまでの学習内容を活用した身近な例について説明し、考察をすることで既知の学習内容の理解を深める。今回は正規分布の内容から、偏差値を題材にして考察する。

イ 工夫した点

(ア) ICTの活用

ロイロノートを使用し、スライドを使って解説をした。また、ロイロノートの共有ノート機能を利用して、他の生徒との意見交換や情報交換を行った。

(イ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫

① 解説はスライドを利用することで短縮し、生徒の活動時間を長くとるようにした。

② 共有ノート機能で、他の生徒の意見をリアルタイムで共有することで、さらに深い考察ができるようにした。

ウ 評価の方法

知識・技能は授業内で行う練習問題、思考・判断・表現はロイロノートの共有ノート、主体的に取り組む態度は授業後に行う振り返りシートで評価した。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

授業後に行ったアンケートでは、「他の人の意見が共有しやすく理解が深まった」との声が多く、おおむね好評であった。しかし、共有ノートは誰でも操作できてしまう点から、誤って他人のカードを消してしまったり、ふざけて書き込みしてしまったりする短所がある。また人数が多いと動作が重くなってしまうため、少人数の授業では成り立つが、40人の一斉授業では適用できない。今後も様々な意見共有の方法を模索していかなければならない。



共有ノート利用の様子



(2) 令和5年度の数学科の取組

授業や補習においてロイロノートやPowerPointなどを積極的に利用している。また、教科内の連絡はOneNoteを利用し、ペーパーレス化を実現している。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」(生徒の意欲・関心を高める授業)の創出に向けて

日常生活においてどのように数学が役立っているのかを実感できるような機会を増やしていきたい。そのために、ICTを利用して板書時間を省くことで時間確保をしていきたい。

- イ 「深い学び」(探究的な学習)の充実に向けて
自分の意見をただ述べるだけではなく、他者の意見を聞いた上でさらに思考を深めていくような活動を増やしていきたい。
- ウ 観点別評価の充実に向けて
思考の課程をワークシートに記述したり、ロイロノート上で記録に残したりすることで、どのように思考を深めていったのかについても適切に評価していきたい。

4 理科の研究 ～授業内における効果的なアウトプット活動の模索～

(1) 令和5年度の研究授業

- ア 授業内容の要旨(詳細は指導案を参照)
1年 生物基礎 ヒトのからだの調節 免疫 獲得免疫
関わる免疫担当細胞の違いやそれぞれの役割、身近な現象に関連付けながら授業を実施した。
- イ 工夫した点
 - (ア) ICTの活用
授業時に投影するパワーポイントの画面を、ロイロノートにカード化し、生徒全員に配付した。生徒はこのカードに重要な単語を書き込んだり、作図をする。パワーポイントのアニメーション動画で使用した図形パーツをカードに張り付けておくことで、生徒の作図の負担を減らし、効率よくアウトプット活動ができるよう工夫した。
 - (イ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫
免疫分野の総復習として、免疫カードゲームを活用した班別活動を実施した。「この細菌に対して食作用を行うのはどの細胞か」「体液性免疫になるようにカードを並べよ」などの発問をし、班で話し合いながらどのカードの細胞がどのような順番ではたらくのかを考えさせた。
- ウ 評価の方法
細胞性免疫、体液性免疫に関わる細胞の種類とその順序を問う問題を、ロイロノートのカードで作成し、期限までにロイロノート内の提出箱に提出させた。
- エ 授業実践を踏まえた今後の課題
授業ノートやプリントを用意せず、ロイロノートのみで授業を進めている。タブレットがその時間使用できない生徒への配慮が必要になる。

(2) 令和5年度の理科の取組(教科としての目標や実践していること)

実験材料に身近な果物や野菜を使用する、インフルエンザなどの感染症に関連付けて授業を展開するなど、日常生活に理科が深く関連していることを生徒が意識できるような授業づくりを心掛けた。また、授業で得た知識を活用し、話し合いや発表、生徒自らが実験の計画を立てるなど理科の見方・考え方をアウトプットする機会を設けるようにした。

(3) 来年度の課題

- ア 「もっと学びたくなる授業」(生徒の意欲・関心を高める授業)の創出に向けて
カードゲームやアニメなど、理科に関連するさまざまなコンテンツを授業に取り入れ、生徒の学習意欲を高めたい。また、アウトプットの機会を増やすため、TeamsやKahoot!などのデジタルコンテンツやアプリケーションなどを積極的に活用していきたい。
- イ 「深い学び」(探究的な学習)の充実に向けて
探究の第一歩となる疑問を生徒に持たせられるような授業づくりを心掛けたい。自然の事物・現象をただ学ぶのではなく、「なぜ」「どうして」という考えを発展させ、理解を深めさせたい。
- ウ 観点別評価の充実に向けて
1年通してどのタイミングでどんな評価を行っていくかを事前に計画しておくことが重要である。そのため、担当教員間で連携をとり、授業や実験、提出物におけるルーブリックを作成し、授業に係わる人物全員で共有することが望ましい。

5 保健体育科の研究 ～より良い授業を目指して～

(1) 令和5年度の研究授業

ア 授業内容の趣旨（詳細は指導案を参照）

2年生の系列選択でスポーツを選んだ生徒に向けての授業のため専門性を意識して授業を行った。

前年度の研究を踏まえ、少人数授業における専門性の向上に目標を置いた。

イ 工夫した点

(ア) ICTの活用

自分たちの活動を見返し、話し合い活動ができるよう試合中の動きの動画撮影を行った。

YouTubeなどを用いて動画を交え学べるように声掛けを行った。

(イ) 話し合い活動（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫など）

各グループに課題となる専門的スキルを決めさせて、ICT機器を利用しながら仲間の動きやどういった際に良いプレーが生まれているかの意見を交わす。

ウ 評価の方法

授業準備、設営に協力している（関心・意欲・態度）

専門的スキルを高める中で仲間と意見を出し合い、練習を工夫している（思考・判断）

練習の中で課題となる専門的スキルを身に付けることができている（技能）

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

グループワークが長くなっていくと惰性の練習が多くなっている傾向があった。

グループの中に専門的スキルをしっかりと理解できている人がいないと取り組み初めに時間がかかる。

(2) 令和5年度の保健体育科の取組（教科としての目標や実践していること）

前年度に引き続き、全学年が連続性をもってスキルを教えていくことができるようにする。

どの教員であっても一定水準以上のスキルを教えることのできる授業力。

雨天の場合を活用して視聴覚教材などでの専門性をより高める。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」（生徒の意欲・関心を高める授業）の創出に向けて

「できた」から「もっとうまくなりたい」と思えるようなスキルの習得に向けたバリエーションのある練習や授業展開を行う。

全体を試合で楽しめる水準まで上げるための個々へのアプローチの仕方を工夫する。

イ 「深い学び」（探究的な学習）の充実に向けて

ICT機器を利用して自分の姿を記録で残すことや動画視聴を通じてトッププレーヤーやお手本となる動きから学習を行う。また、両者を見比べて自身との違いを発見し、改善できる活動をより増やしていく。

ウ 観点別評価の充実に向けて

より生徒の話し合い活動やお互いの教え合い活動を積極的に取り入れていく。

新しい評価の中でなるべく身体活動を増やした中での評価方法の確立。

6 英語科の研究 ～英語への壁を低くするために～

(1) 令和5年度の研究授業

ア 授業内容の要旨

人間の表情と心理の関係についての英文を読み、英語でペアの生徒と確認しながら概要を把握する。教科書の内容が実際の生活に活かしていることを実感する。

イ 工夫した点

(7) ICT の活用

Quizlet を使用し、ゲーム感覚で楽しく単語の復習ができるようにする。また、PowerPoint で会話モデルを表示することで、板書をする時間を省き、生徒の英語での会話を助ける。さらに、短い歌を利用し、耳と目で内容を確認できるようにする。

(イ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫

人間の表情と感情の関係について研究した事例を取り上げて、教科書には答えがない問題に取り組むようにした。

ウ 評価の方法

本時の知識・技能についての評価はワークシート、思考・判断・表現についての評価は活動の観察、主体的に取り組む態度についての評価は活動の観察で評価する。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

帯活動の pair conversation を writing 活動につなげていけるようにする。さらに speaking テストの練習につながるよう、内容を工夫する必要がある。

(2) 令和 5 年度の英語科の取組

パフォーマンステストを行い、4 技能全ての観点から生徒を評価している。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」(生徒の意欲・関心を高める授業)の創出に向けて

様々な ICT を使用してみて、生徒の意欲につながると感じたものは、現段階ではゲーム感覚でクイズ形式問題を解くものと、歌である。これらを教科書の内容と結び付け授業を行うことで英語を使うことが英語への抵抗感を軽減する授業にと考えるが、教員の創意工夫によるところが大きい。未使用の機能を研究し続け、最適なものを見つけていきたい。また、生徒の「なぜ?」の意識がどこに向いているのかを意識することで、生徒の心に残る授業にしていくことも必要と考える。

イ 「深い学び」(探究的な学習)の充実に向けて

教科書の進度が早く、章のまとめに割く時間があまりとれていない現状がある。章全体を通しての著者のメッセージを理解した上で、生徒自身が何を感じ、自身の生活にどう応用できるかを考える時間を作っていく。また、今回の授業のように、英語の文章の意味の表面を読むだけでなく、行間を読みながら理解を深めることができるように設問に工夫を凝らしていく。

ウ 観点別評価の充実に向けて

自主的に取り組む態度の評価については授業内の態度や課題の提出で評価しているが、生徒の自主性は別のところに現れると考えている。Teams の reading progressive を利用し、生徒自身が英語を話すことの上達を目的にして自ら何度も練習できる環境、習慣作りをし、その提出物を評価に入れていく方法を考えている。

7 家庭科の研究 ～実生活で活用できる授業展開と、主体的に授業に取り組む生徒の育成～

(1) 令和 5 年度の研究授業

ア 授業内容の趣旨(詳細は指導案を参照)

生徒一人ひとりが食生活の自立に向けて、食材の扱い・計量方法・切り方等、調理の基本となる技術を身に付けることができる生徒の育成を目指す

イ 工夫した点

(7) ICT の活用

調理のポイントとなる切り方や手順の画像や動画を事前に撮影し、事前学習の教材として使用することで、当日使用する調理器具の種類や食材の切り方、調理方法を視覚で確認できるようにした。調理実習当日には、師範説明に加えて、ポイントを再度、画像・動画で投影することで、より効率的に調理を進められると考え ICT を活用することとした。

(イ) 深い学びの実現に向けた工夫点

事前に調理の概要やポイントを画像や動画で確認することで、実習の予習を視覚的に行うことができ効率的に実習を進められると考えている。調理実習では、紙面だけではイメージしにくい部分もあるため、つまずきそうな点は実際に師範説明を行い、補足として画像・動画

で示すことが効果的であると考えている。

ウ 評価の方法

調理手順の事前プリント提出および、実習の取組状況、実習記録用紙等総合的に判断し評価を行う。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

実技科目は、生徒に対して技術習得および向上を目的としているため、実物のものに触れ、扱い、製作していくことが重要である。ICTを効果的に利用しようと思う反面、頼りすぎてしまうと一方向になりがちな授業となり、新しい技術を伝えることが難しくなるという側面もあることを考慮しなければならないと考えている。

(2) 令和5年度の家庭科の取組（教科としての目標や実践していること）

生徒の生活自立の一助となる授業展開を目指す。また、食育の観点から畑に作物を植え、育て、収穫し調理等を行っている。社会人講師を活用することでより専門的な知識や技術を身に付けさせることを心掛けている。

(3) 来年度の課題

ア 「もっと学びたくなる授業」の創出に向けて、および「深い学び」の充実に向けて

実習の予習を行うためには予め手順等の動画をロイロノート等で配布し、実習後はアンケートや小テスト等をタブレット上で行うことで実習の目的やねらいがよりはっきりすると考える。

イ 観点別評価の充実に向けて

調理実習等での制作物は実物のみの評価でなく、タブレットで生徒自身が撮影し、ロイロノート等に提出することで、後日、画像から切り方・分量等細かい部分を評価できると考える。また、実習内容を再度振り返ることができるような生徒が主体的に意見を述べられるような授業展開を今一度考えていきたい。

8 商業科の研究 ～ロイロノートを使ったグループディスカッションとプレゼンテーション～

(1) 令和5年度の研究授業

ア 授業内容の要旨（詳細は指導案を参照）

情報セキュリティに関する事例を題材にしてグループディスカッションを行い、事例に対する問題点と対策をグループでまとめ、発表させた。

イ 工夫した点

(ア) ICTの活用

グループディスカッションと授業全体で発表するためにロイロノートを使った。授業全体のノートとは別に、グループの意見をまとめるためのグループごとのノートを作った。グループ別のノートで作成した発表用カードを授業全体のノートに送り、プレゼンテーションに使用した。

(イ) グループディスカッション（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫など）

グループで意見をまとめる際に、同意見が複数出た場合はその数を表示させた。また、話し合いの過程で新たに出てきた意見にマークを付けさせて、話し合いの有用性についても認識させた。

ウ 評価の方法

個人で作成した事例に対する問題点と対策をまとめたロイロノートのカードを提出させ評価した。また、ワークシートを作り、他のグループの発表をまとめて提出させた。グループで意見をまとめる過程で、リーダーシップを発揮している生徒を高く評価した。グループ発表で使ったカードやプレゼンテーションも評価した。

エ 授業実践を踏まえた今後の課題

今回行ったグループディスカッションやプレゼンテーションなどの授業形態は、学んだ知識の確認だけでなく、言語活動の充実や進路実現に必要な面接への対応にもつながる。時間はかかるが、今後も同じような形態の授業の回数を増やしていかなければならない。

(2) 令和5年度の商業科の取組（教科としての目標や実践していること）

金融・企業会計・情報通信・経営などの分野の社会人講師の活用を行っている。また、多くの授業においてプレゼンテーションを複数回行い、言語活動の充実に努めている。

(3) 来年度の課題

- ア 「もっと学びたくなる授業」(生徒の意欲・関心を高める授業)の創出に向けて
今回の題材のように学んだことが実社会で使われており役に立つことを理解させ、学びのモチベーションにつなげていかなければならない。
- イ 「深い学び」(探究的な学習)の充実にに向けて
学んだ内容が日常生活や実社会で使われていることに気付かせ、より深く探究させるためにプレゼンテーションやレポート課題などを実施することが重要である。
- ウ 観点別評価の充実にに向けて
年間計画を作成する段階から評価項目や授業内容に応じてどの部分をどの観点で評価するかをよく考えて計画しないといけない。また、同じような活動では観点が偏ってしまうため、1つの授業内に様々な活動を盛り込むことが適切な評価につながると感じている。

国語科（現代文B）学習指導案

一日 時 令和五年十一月十七日（金） 第一限（五十分）

二 学 級 級 三年三組 四十名

三 学 級 観 授業態度が真面目で、積極的に予習に取り組む生徒も見られる。その反面、指示されたことには充分に取り組めるが、自分から発言や発信をすることを苦手とする生徒が多い。

四 使用教材 教科書「精選 現代文B 新訂版」（大修館書店）
 五 単 元 元 評論（一）『「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ』（内田樹）

六 単元目標

論理的な文章に触れ、人間のあり方とはどのようなものか、また、他者とのかわりはどうあるべきかについて、考えを深める。また、物の見方、感じ方、考え方を豊かにする。

七 単元計画

第一段落 「贈り物」とはどのようなものか？

一時間

第二段落 返礼義務のあり方

一時間

第三段落 「ノブレス・オブリージュ」とはどのような意味か

一時間

発展課題 友達の「ノブレス・オブリージュ」を考えよう

三時間（本時三／三）

八 本時の目標

ペアの生徒の「ノブレス・オブリージュ」（各人固有の能力と、それを使った他者への貢献）を考え、述べる活動を通し、筆者が本文で主張した内容の理解をより深める。

九 本時の評価規準

筆者が主張する「ノブレス・オブリージュ」の意味を正しく捉え、実際に身近な場面に当てはめて考えを深めることができる。（読むこと）

十 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (五分)	筆者が主張した「ノブレス・オブリージュ」の意味を簡単に押さえる。	筆者が主張した「ノブレス・オブリージュ」の意味について再度理解し、本時の発表で述べるべきことを確認する。	・評価シートを配布する。 ・「ノブレス」は「固有の能力」、「オブリージュ」は「能力を用いた他者への貢献」を指すことを説明し、一般的な意味とは違う主張が為されていたことに注意させる。
展開 (四十分)	ペアの生徒の「ノブレス・オブリージュ」について発表する。	・筆者が主張した「ノブレス・オブリージュ」の意味をあてはめながら、ペアの生徒の「ノブレス・オブリージュ」を考え、スライドを用いて発表する。 ・他の生徒の発表に対しては、質疑応答および評価シートへの記入を行う。	・聞き手となる生徒には、筆者の主張に基づいているかどうかを観点に入れて評価させる。 ・発表内容が具体性に欠ける場合は、授業者からも質問を行い、追加で説明をさせる。
まとめ (五分)	改めて筆者の主張を押さえる。	・評価シートを提出する。 ・改めて、個々に「ノブレス・オブリージュ」があることを、発表内容と筆者の主張を踏まえて理解する。	今回ペアを組んだ生徒以外の相手や、自分自身の「ノブレス・オブリージュ」についても考えるよう促す。

地理歴史科・公民科（シティズンシップ）学習指導案

- 1 日時・場所 令和5年11月15日（水） 第5限 2年3組教室
 2 学級 2年1・2・3組 24名
 3 単元名 地域社会と私たち 知立市議会高校生議会
 4 単元の目標

- (1) 現代社会を生きる課題と社会への参画の意義について、多面的・多角的に考察し、表現です。
 （知識・技能）（思考・判断・表現）
 (2) 現代社会を生きる課題と社会への参画の意義について、自分自身の課題として捉え、主体的に考
 える。（主体的に学習に取り組む態度）

5 単元の指導計画

(1) 単元の配当時間（16時間中 8時間目）

- ・地域社会の問題点を考える 3時間
- ・市議会議員とのタウンミーティング 2時間
- ・高校生議会への検討会 3時間（本時3/3）
- ・中間報告会 1時間
- ・市民提案への検討会 3時間
- ・知立市議会のオンライン視聴 2時間
- ・知立市議会 高校生議会 2時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自らが生活する知立市と他市との比較を交えながら地域社会の特徴を理解している。	自らが生活する知立市を客観的に評価し、この提案による今後への影響について考察し、見解を表現している。	地域社会の在り方について、自ら主体的に考え、市議会への提案を積極的に行う努力をしている。

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・発表の方法や手順について考え、相手とのコミュニケーションを図りながら協力的で円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- ・自分の考えを具体的に相手に伝えることができる。

(2) 教材

パワーポイント

(3) 本時の指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法
導入 (5分)	・本時の流れを説明	・自分の班の発表準備の進捗を確認する。 ・班の情報係はタブレットを立ち上げ、ZOOMの準備をする。	・タブレットを立ち上げさせる。	
展開 (40分)	・オンライン会議	・各班でZOOMをつなぎ、担当議員との打ち合わせを開始する。 ・作成したパワーポイントや資料を用いて、議員と話し合い、助言をもらう。 ・議員との打ち合わせ内容を記録する。	・オンライン接続ができていないか机間巡視を行い、適直接続等の手助けをする。 ・話し合いが滞っているグループには適宜助言する。	【主体的】 【思考・判断・表現】

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法
まとめ (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の復習 ・次回への予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会に向けて、今日のオンライン会議のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議を踏まえた発表準備ができるよう助言する。 	

(4) 本時の評価規準

- ・授業理解の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

「オンライン会議に積極的に参加し、自らの言葉で表現している。」

「おおむね満足できる」状況 (B) と評価される例
<ul style="list-style-type: none"> ・会議に積極的に参加し、自らの提案を具体的に相手に伝えることができている。
「十分満足できる」状況 (A) と評価される例
<ul style="list-style-type: none"> ・会議に積極的に参加し、相手の助言を踏まえて自らの提案について改善している。
「努力を要する」状況 (C) と評価される生徒の例と教師の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・会議に積極的に参加できていない。自らの意見を相手に伝えることができていない。 →机間巡視の際に助言をする。

7 御高評

数学科（数学B）学習指導案

- 1 日時及び場所 令和5年11月17日（金）第6限 ゼミ4教室
- 2 学 級 2年5組（総合学科）サイエンス系列 18名
- 3 学 級 観 数学を得意とする生徒と苦手とする生徒が混在しており、学力差が大きい。
元気で活力のある生徒もいれば物静かな生徒もいる。
- 4 使用教材 教科書 数研出版 「新編 数学B」
副教材 数研出版 「3 TRIAL 数学B完成ノート」
- 5 単 元 第2章 統計的な推測
- 6 単 元 目 標
統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 7 単 元 計 画
第1節 確率分布 11時間（本時11/11）
第2節 統計的な推測 11時間
- 8 本時の目標
偏差値の意味を考察することで、正規分布の利用や標準化についての理解を深める。
- 9 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (5分)	<p>○AさんとBさんはどちらが優秀だろうか考える。</p> <p>Aさん:国語70点(平均50点) Bさん:数学60点(平均50点)</p>	<p>○Aさんの国語の点数と、Bさんの数学の点数と、それぞれの平均点からどちらが優秀か推測する。</p>	<p>○タブレットを準備させロイロノートを起動させておく。</p> <p>○ロイロノート上で作成したスライドを見せながら説明をする。</p>
展開 (40分)	<p>○本日のテーマの提示「偏差値について考えよう」</p> <p>Aさん:国語70点(平均50点, 標準偏差20点) Bさん:数学60点(平均50点, 標準偏差5点)</p> <p>○偏差値60は相対的にどの程度なのか考える。</p> <p>○練習問題を解く。</p>	<p>◎確率分布を見ることで、得点と平均点だけでは優秀さは判別できないことに気づく。</p> <p>○偏差値の計算式を知り、AさんとBさんの国語、数学の偏差値をそれぞれ求める。</p> <p>○架空のテストを作り、その偏差値を求める。</p> <p>○偏差値について気づいたことをまとめる。</p> <p>○偏差値60は上位何%か求める。</p> <p>○練習問題を解き、ロイロノートで提出する。</p>	<p>○2教科の確率分布を提示する。平均は同じでも分布が全く違うことを説明する。</p> <p>○計算した偏差値をロイロノートで提出させる。</p> <p>○共有ノートを利用する。動作が重くなるようなら提出箱を利用する。</p> <p>○偏差値のとり値と標準偏差の関係について積極的に考察しようとする。 思考力・判断力・表現力</p> <p>○前時の学習内容で求めることができることを説明する。</p> <p>○机間巡視をして、手が止まっている生徒に助言をする。</p>

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
まとめ (5分)	○本時の振り返り	○振り返りシートを記入し、提出する。	○ロイロノートで振り返りシートを送る。

10 本時の評価規準

学習目標	評価方法	評価規準		努力を要すると判断される状況と評価される生徒への手だて
		おおむね満足できると判断される状況と評価する具体例	十分満足できると判断される状況と評価する具体例	
偏差値の意味を考察することで、正規分布の利用や標準化についての理解を深める。	提出課題 振り返りシート	偏差値と標準偏差の関係について考察し、自分の言葉で表現することができる。	偏差値と標準偏差の関係について考察し、標準化の意味を理解した上で練習問題を解くことができる。	偏差値と標準偏差の関係について考察が進まない生徒に対して、具体例を提示しながら必要な助言をする。

11 御高評

理科「生物基礎」学習指導案

- 1 日時・場所 令和5年11月17日(金)第4限 1年6組教室
 2 学 級 総合学科 1年6組 38名
 3 単 元 実教出版 高校生物 3章 ヒトのからだの調節 3節 免疫
 4 指導計画 3節 免疫 6時間
 1 生体防御と免疫 1時間
 2 自然免疫のしくみ 2時間
 3 獲得免疫 2時間(本時2/2)
 4 免疫と疾患 1時間
 5 単元の目標 ● 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解する。
 ● 免疫について、身近な現象と絡めて理解する。
 6 単元評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 免疫の医療への応用や人の免疫疾患について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料に基づき、異物を排除する防護機構が備わっていることを見出して理解している。 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとする。 	定期考査 授業ノート (ロイロノート) 振り返りシート 補助教材

- 7 本時の目標 ● 獲得免疫のしくみを理解する。
 ● カードゲームを通して、生体防御の「白血球による防御」について、細胞名やしくみをクラスメイトと確認する。
 8 本時の評価基準

主体的に学習に取り組む態度	評価方法
獲得免疫のしくみをクラスメイトと確認し、理解しようとする。	ロイロノート

9 本時の展開 (50分)

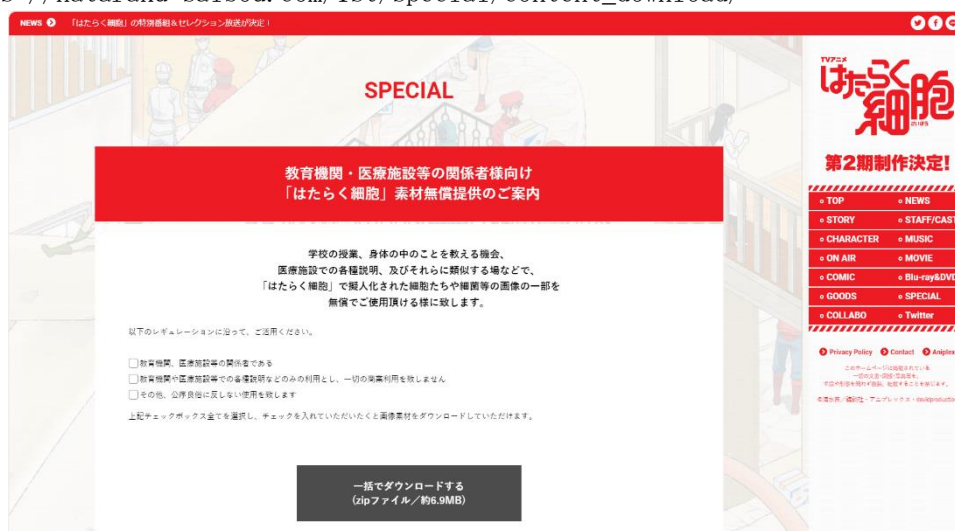
活動(時間)	学習内容・生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入と復習 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 自然免疫と獲得免疫の違いを復習 自然免疫は非特異的、獲得免疫は特異的にはたらく 獲得免疫は樹状細胞の抗原提示から始まる 	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ決めておいた4人1班で着席させる。 ロイロノートを準備させ、生徒と同じカードをプロジェクターで映す。
展開1 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 細胞性免疫の説明 体液性免疫の説明 カードの穴埋め、図の編集を通して、樹状細胞、ヘルパーT細胞、キラーT細胞、B細胞、抗体産生細胞、マクロファージの役割を確認する。 細胞性免疫は抗原に感染された細胞や移植された細胞をキラーT細胞によって破壊し、体液性免疫は体液中の抗原を抗体によって不活性化させる免疫であることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 細胞性免疫と体液性免疫で攻撃対象となる抗原の存在場所が異なることを強調する。

活動（時間）	学習内容・生徒の活動	指導上の留意点・評価
展開 2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 免疫カードゲーム ルールの確認と、ゲームの進め方を通して、クラスメイトどうして話し合いながら白血球による免疫のしくみを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「食作用を持つ細胞は何だったか」や、「体液性免疫においてヘルパーT細胞はどの細胞を活性化させるか」などの声掛けをしながら、ゲームの進行を促す。
課題指示 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題カードの内容と提出締め切りを確認 	

10 授業時使用のコンテンツについて

本授業内で使用した、TVアニメ「はたらく細胞」のキャラクター画像は、TVアニメ公式サイトにて、教育機関・医療施設等の関係者向けに無料提供されたものである。

URL: https://hataraku-saibou.com/1st/special/content_download/



11 御高評

保健体育科「スポーツⅡ」学習指導案

- 1 日 時 令和5年 11月 6日 (月) 2限
 2 学年・学級 第3学年 3組 9名
 3 実施場所 体育館
 4 単 元 バスケットボール
 5 指導計画 年間指導計画表による (本時 13/18)
 6 使用教材 バスケットボール 9個、デジタルタイマー 1個
 ビブス 6枚、タブレット (各自)

7 本時の目標

- (1) 仲間と工夫を凝らし、チームスキル習得に向け挑戦できる (技能)
 (2) 選択したチームスキルのポイントを押さえ、より効率的な練習を行っている。(思考・判断)

8 指導過程

	時間	学習活動	指導上の留意点・評価基準
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、点呼 ・ラジオ体操第二 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢、服装を確認し、元気よくあいさつさせる ・生徒の健康状態を確認する
展開	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでの動画や撮影を用いてチームスキルの練習 (カットイン、ポストプレー スクリーンプレー) ・試合 (3×3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択したチームスキルのポイントを押さえ、より効率的な練習を行っている。(思考・判断) ・仲間と工夫を凝らし、チームスキル習得に向け挑戦できる (技能) ・ケガが起きそうな場面が予感できた場合は練習を中止させる ・生徒自身が教えられるようにポイントをまとめさせる ・異なるシチュエーションでも応用が利くよう声掛けを行う ・先ほどの練習を活かし、試合の中で実際に行わせる
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで反省タイム ・片付け ・整列 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の試合の中で練習をしているチームスキルはどう生かされたか各チーム反省を行わせる ・次回はどのような練習が効果的か次の課題を考えさせる ・協力して片付けを行わせる ・姿勢、服装を確認し、元気よくあいさつさせる

9 御高評

“English Communication I” Teaching Plan

- 1 Date / Place November 10th, Friday, 2023 / classroom 106
- 2 The class Integrated course, class 106 (38 students)
- 3 Unit PANORAMA English Communication I
Lesson 7 Can You Read Face?
- 4 Schedule Lesson 7 (3ed of 7)
Introduction 1 hour
Vocabulary 1 hour
G i s t 1 hour (this lesson)
G r a m m a r 1 hour
D e t a i l s 2 hours
C o n c l u s i o n 1 hour
- 5 Goals of the unit To understand content about the human mind
To interact with classmates about the human mind

6 criterion of the unit

Perspective	Knowledge, skills	Ability to think, judge, and express themselves	Attitude
Criterion	① To be able to answer the contents of what they read properly	① To be able to understand the contents with a familiar thing ② To be able to tell what they understand about the relationship between feelings and facial expressions	① To be interested in the relationship between feelings and facial expressions and try to retell what they learn ② To try to tell their own opinions ③ To try to read the passage fluently and accurately
Skills	① Reading, Writing	①② Reading, Speaking, Writing	①② Speaking
How to evaluate	① Examination, Homework worksheet	① Examination ② Loilo note	①② Observation ③ Teams

7 Goals of the lesson

- (1) to be able to understand the flow of Lesson 7 and check it with a partner in English
- (2) to be able to understand the content which is not written in the passage with discussion

8 Criterion of the lesson

Perspective	Knowledge, skills	Ability to think, judge, and express themselves	Attitude
Criterion	① To be able to answer the contents of what they read properly	① To be able to understand the reason why Paul Ekman chose the Fore tribe in Part 2 of the passage	① To be interested in the relationship between feelings and facial expressions and try to retell what they learn ② To try to tell their own opinions
Skills	①② Reading, Writing	① Speaking	①② Speaking
How to evaluate	①② Worksheet	① Observation	①② Observation ③ teams

9 The plan of the lesson (50 min)

Activity (time)	The students will	The teacher will
Review and Warm-up (10 min)	<ul style="list-style-type: none"> • Review vocabulary with Quizlet • Talk with a partner about “Who was your homeroom teacher last year?” • Share their answer with the class 	<ul style="list-style-type: none"> • Hold Quizlet • Show a model dialogue • Ask two students
lesson (39 min)	<ul style="list-style-type: none"> • Check the goal and agendas of the lesson • Read the passage quickly to review • Check the options of “Part 5 Step 2” of the worksheet • Read the passage and answer about parts and paragraphs • Check the answer in pairs • Think about the main point of each part • Check the answer in pairs • Put four pictures in order and think which paragraph is about which part • Check the answer in pairs • Think and talk with a partner about the reason why Paul Ekman chose the Fore tribe in Japanese • Share their answer with the class • Watch videos and think about the connection between the contents and a familiar thing 	<ul style="list-style-type: none"> • Show the goal and agendas of the lesson • Give instructions for “part 5 Step 2” of the worksheet • Show a model dialogue • Give instructions about the next section • Show a model dialogue • Check the answer • Give instructions for “part 6” of the worksheet • Show a model dialogue • Give instructions for “part 7 (1)” • Ask two students • Check the answer • Review six universal expressions • Show videos and explain the relationship between universal expressions and a familiar thing
Homework Reminder (1 min)		<ul style="list-style-type: none"> • Remind of the deadline of homework

10 Comment

- 1 実施学年：1年3組（20名）
- 2 実施日時・場所：令和5年11月17日（金） 第5・6時限 第一調理室
- 3 使用教科書：高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる（第一学習社）
- 4 単元名：第5章 食生活をつくる
4節 栄養バランスのよい食事
自分の食事をつくろう
- 5 単元目標：
 - (1) ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解することができる
 - (2) 食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を習得することができる
 - (3) 食の安全や食品の調理上の性質等を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見出し、課題解決しようとする力を身に付けることができる
 - (4) 食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組み改善し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている

6 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身につける。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

7 単元の指導計画

人の一生と食事	2時間
栄養と食品	3時間
食生活の安全のために	2時間
食生活をデザインする	8時間（本時 3/8、4/8）

8 本時の目標

- 食材の計量、洗う、切る等、調理の基本となる技術を身に付けることができる
- 乾麺の扱い、スパゲッティのゆで方を習得することができる
- ナポリタンソースの作り方を習得することができる
- 固形スープを利用したスープの要領について理解することができる

9 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (5分)	学習内容確認	・本時の学習内容と目標を確認する。	・実習の身だしなみが整っているか確認する。	<主> 忘れ物がなく、身だしなみが良いか。
展開 (90分)	師範説明	・ナポリタンとコンソメスープの要点の復習をし、実習のポイントを理解する。	・要点を端的に説明し、ポイントとなる部分は画像で示す。	<知・技> 調理の基本を理解しているか。
	実習 「ナポリタン」 「コンソメスープ」	・必要な調理器具の準備を行う。 ・ナポリタンとコンソメスープの両方で使う食材を理解し、手順に沿って実習を進める。 ・時間配分に気を付けながら2品を並行して実習を進める。 ・片付けや、配膳食器等の準備も並行して行う。 ・マナーを守って試食する。 ・食べ終わった食器や調理台の片づけを行う。 ・片付けが終わった班から、調理台、備品の整理整頓がされているか点検を行う。	・調理器具が整っているか確認させる。 ・調理の手順や材料の分量に注意しながら実習させる。 ・玉ねぎやスープストックはナポリタンとコンソメスープの両方に使用することを確認させる。 ・調理工程に戸惑う生徒等に助言を行う。(必要に応じて画像で手順を確認する。) ・片付け等も同時に行うよう声掛けを行う。 ・食事中はマナーを守り食べることを徹底させる。また、食べ終えた班から順に片付けるよう声がけする。 ・授業時間内に実習片付けまで終わるよう声掛けを行う。片付け後は点検を行う。	<知・技> 実習内容を理解し手際よく進められているか。 <思・判・表> 食材の扱い、切り方等は適切であるか。 <思・判・表> 盛り付け、配膳方法は良いか。 <知・技> 片付けが手際よく進められているか。
まとめ (5分)	次時予告	・片づけ終了後、実習後のレポートの記入を行う。	・次時の授業と持ち物について説明をする。	<主> レポート(後日)内容は良いか

10 御高評

商業科目「ソフトウェア活用」学習指導案

- 1 日時及び場所 令和5年11月17日（金）第2限 システム実習室
- 2 対象生徒 2年情報テクノロジー系列 男子13名
- 3 使用教材 教科書「ソフトウェア活用」（東京法令出版）
副教材「全商情報処理検定試験パスポート1級ビジネス情報編2023」（東京法令出版）
- 4 単元 第5章 情報システムの基礎 第2節 情報資産の保護
- 5 単元目標

情報資産を保護する重要性や方法について自ら学び、情報セキュリティやネットワークの導入と運用について理解し、どのようにすれば情報資産を保護することができるのかを考える力を養う。

- 6 単元構成
 - 1 情報資産の適切な管理 … 1時間
 - 2 情報セキュリティの3要素 … 1時間
 - 3 情報セキュリティ対策 … 1時間
 - 4 情報セキュリティの脅威と対策 … 1時間（本時）

7 本時の目標

情報資産を攻撃してくる驚異の種類と特徴について学び、情報セキュリティ上の問題点について理解し、情報資産を保護するために取るべき対策について考える力を養う。

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点	評価方法
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整え、挨拶をする。 ・本時の学習内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整えさせ、きちんと挨拶をさせる。 ・身近な情報セキュリティの脅威とその対策の必要性について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に臨む意欲・態度が充実している。 ・本時の学習内容が理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 行動観察
展開 (42分)	<ul style="list-style-type: none"> ・脅威の種類とその対策 ・事例の問題点と改善策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・脅威の特徴とその対策について理解する。 ・情報セキュリティの脅威に対する対策を参考に、割り振られた事例に対する問題点と改善策を個人でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの脅威の種類ごとに必要な対策が異なることを理解させる。 ・問題点が解消できる改善策を検討させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脅威に対しての対策方法について理解している。 ・問題点と対応した改善策が出せている。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 プリント作成 行動観察 プリント作成

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点	評価方法
展開 (42分)	・グループ討議	・個人で出した問題を、ロイロノートを使ってKJ法によりグループで共有する。	・個人では気付かなかった意見をプリントに書き加えさせる。 ・似た意見をまとめてタイトルをつけさせる。	・他の生徒の意見を聞くことができる。 ・グループでの意見をまとめることができる。	行動観察 プリント作成 発問
	・グループ発表	・グループでまとめた意見を全体で発表する。 ・他のグループが発表した事例の対策を理解する。	・グループ内で似た意見と特徴的な意見について分かるよう発表させる。 ・自分の班の対策と似ている点があるか確認させる。	・はっきりと分かりやすく、要点をまとめて発表できる。 ・他の事例の対策を理解することができる。	行動観察 プリント作成 発表
まとめ (5分)	・本時のまとめ	・本時に学習した内容を確認する。	・情報セキュリティの脅威とその対策を再確認させる。	・本時の内容が理解できている。	行動観察
	・挨拶	・学習終了の挨拶をする。	・身だしなみを整え、挨拶させる。	・しっかりとした態度で授業を終えることができる。	行動観察

8 御高評